OMC News 大阪ムービーサークル

ＯＭＣ事務局　〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
広報編集局　〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/

平成１８年３月（2006年）No.４８３

## 随筆
# 撮り放し素材の”なげき”

会長　合原一夫

京都の知人から、”○×のような映像素材はお持ちでないでしょうか”との問い合わせがあり、それなら過去に撮った筈だと、とにかく探してみることにした。ところが、いつの間にか撮影済みテープが山とあり、テープのレッテルには簡単な覚え書が書いてあるが、くわしくは判らない。見つけ出すことの困難さを改めて実感した。皆どうしているのだろうか。

私の場合、作品にきちんとまとめる場合は、内容をコンテ絵にかいたリストを作成しているので、そのリストをみれば比較的容易に目的の映像が選び出せる。が、問題は作品にせず、唯撮ってきた、というテープの場合、作品内容リストを作成していないのである。リストを作るには手間がかかるので、作品にする気のないもの、まとめようがないものは、そのまま、お蔵入りというのが現状なのだ。考えてみると実に勿体無い話である。

**■纏める気の出る素材はこんなもの**：① OMC や OVC の撮影会の素材、これは後日コンテストが行われるので、とにかく目標を持って何とか纏めようとする。コンテストのない他のクラブの撮影会のものは意欲が湧かない。②海外旅行もの、同行者への贈呈も多いので何とか纏める。③自分でテーマを選んで取り組み撮影したもの等。要するに何か目的を持って撮影した素材は何とか活かそうと頭をひねって脚本もかき、作品化する。従って絵コンテも残されて、いつでも検索が出来るよう整理されているのだが、問題はその他の大半の纏める意欲が湧かないもの、纏めようがないものの素材が手つかずのまま放置されていることにある（以下次頁へ続く）。

### ３月例会のお知らせ

３月例会は第４土曜日２５日、午後６時より大阪市立難波市民学習センター（ＪＲ難波駅 OCAT ビル４階）にて開催いたします。ハイビジョン作品も DV テープのみで受付します。最近は出品数も増えております。お早めにお越しください。季節も暖かくなって参りました。多くの会員諸氏のお集まりを楽しみにしております。

（1頁より続く）

**■纏める気が起こらない私が撮った素材**

①仕事や他の用事で出掛けて行って、ついでに撮ってきたものの場合、ほとんど作品にまで至ったものがない。吉岡世話役など出張先で撮ってきた映像を立派な作品に仕上げておられるのを見て感心している。お伺いすると、撮影前に観光案内所へ行って資料をもらったり、行く前にいろいろ調べて出発されるらしい。見習うべしである。

②ぶらり散歩の類のものも、季節ごとによく撮ってはいるが、いつかそのうちに役立つかも知れないと、まずは撮り放し。例会でよく気軽に楽しく纏められている作品を見るとうらやましい。やはり気軽にまとめて見てもらうのも、せっかく撮った映像に陽の目を見せてあげる意味でも必要なんじゃないか等と反省しきりである。が、どうしても後まわしになってしまう様だ。

③家内のお供で写真の撮影ツアーに同行して撮ったものも、まずは陽の目を見ないものの種類である。日の出や日の入りなどきれいなカットは撮れても、写真の場合と違って、ストーリーになり難いのである。脚本をきちんと書き上げてからでないと編集に取り掛かれない性格が災いしているのかも知れない。

こうしてみると、私も体力が弱って撮影に行けなくなっても、膨大なストックをうまく利用して幾つもの作品を作り続けられるのではないか、何か妙な気持ちのゆとりみたいな安心感がある。

が、体が動くうちは、撮ることがまずは楽しいと、せっせと撮ることにしよう。

## コンテスト入賞のお知らせ

**■ハイビジョンで撮る日本の祭りビデオコンテスト** に次の方々が入賞されました。おめでとうございます。

佳作「あばれ祭り」　吉岡貞夫さん
佳作「那智の火祭り」　紙本　勝さん
佳作「よさこい祭り」　江村一郎さん

江村さんの作品は原題「YOSAHOI 2004」ですが、何故かタイトルが変更されました。

## 映写会情報

**■寝屋川市映像協会、**映像フェスティバル
3月31日（金）13時16時、4月1日（土）及び2日（日）10時、13時、16時の3回
場所：京阪寝屋川市駅前アドバンス2号館3階、市民ギャラリーにて、

**■ＯＶＣビデオフェスティバル**

4月23日（日）13時開場13時30分上映、場所は大阪市立中央会館にて。今回初めてハイビジョン作品が3本公開映写会に登場します。大いに注目されるところです。

**■ＯＭＣ撮影会**

6月3日（土）4日（日）に、但馬海岸の漁港風景と餘部鉄橋をテーマにして実施します。詳細は決まり次第お知らせします。年に一度の会員親睦を図る楽しい集いです。多数の方のご参加を期待します。

## ２月例会のレポート

2月例会は26日にいつもの例会場で開催されました。2月の下旬になると、さすがに暖かくなって上旬までの寒さが嘘のような日和です。

上映作品を受け付けてみると、遂に4：3映像が5本、16：9映像が10本と、完全に水を空けられた出品数構成になりました。16：9作品の内訳も、DVが5本、HDVが5本と半々に上がってきました。格安になったHDVカメラを買われる方が続くでしょうから、さらにHDVが増えるものと思いますが果たしてどうなるでしょうか。

今月の司会は有村氏、書記は前田（筆者）、機材は増池、江村、河合の3氏、受付は奥氏、宮崎さんの担当で会を進行しました。

**出席者**：有村、江藤、江村、奥、上総、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、田中、鉄具、中尾、西井、西村、秦、華岡、前田、増池、松本、宮崎、森、山本、安居の２５氏、それに見学者の日系ブラジル人の清水氏です。なんでも清水氏は日本でビデオの勉強をされて3月に故国ブラジルに帰ってＴＶ局のプロカメラマンになるそうです。ブラジルではHDVはまだまだですが、HDVを持ち帰って紹介したい。日本のアマチュアHDV映像活動を是非見学したいとのことで西井さんが連れてこられました。今月はこれまで最多の5本の出品があって期待に副えたと思いますが、どのようなご感想であったのか、聞きたかったと思います。

■上映作品（今月の講評は前田世話役です）

**1．親日の国ネパール**

**西村光雄さん　9分30秒**

ネパール、カトマンズを取材されるようになって6年が経過したそうです。飛行機からみたヒマラヤの映像から始まって、市内の様子を紹介するオーソドックスな切り口で入って行きます。6年前の映像との対比で現在のカトマンズを紹介していますが、実によく判り上手い方法だと感心しました。礼拝に来られた制御技術者との出会いでお宅まで案内してもらうことになって、その様子を記録する本編に入っていきます。初めて出会った日本人を自宅に招き入れてくれた親日的なネパールの人々、街の食堂にあった雑記帳に大阪の旅行者がネパールで癒された話などを紹介して、親日の国ネパールを締めくくります。西村さんならではの素晴らしい紀行作品です。近隣の某大国とのギスギスした関係に嫌悪感を覚えますが、このような作品をみると、親日的な国もあるのだなと判り、こちらの心も癒され晴れやかになりました。

**2．鞍馬寺**

**宮崎紀代子さん　6分00秒**

鞍馬寺というと、昨年放映された義経が少年時代過ごした山としてあまりにも有名ですが、この作品も義経との関連をナレーションで語って展開していきます。宮崎さんはナレーションが大変お上手なので聞きやすく心地よい響きで耳元に入ってきます。映像もしっかり撮られており、立派な紀行作品でした。ただラストが突然終わるような感じで惜しいと思います。紀行作品は出来ればロングのシーンを長めに撮って余韻を持って終わらせてください。ナレが終わってすぐにエンドマークを出すのではなく、ラスト映像を長めに見せてBGMで盛り上げてエンディングにしたら、もっと印象的な作品になります。

**3．空の旅**

**安居利次さん　7分45秒**

いつも安居さんの作品を見て感心するのですが、よくもまあこまめに記録されておられるということです。今回は飛行機に乗って旅をしたシーンだけを集めて、亡き良枝さんとの思い出を語るというストーリーです。普通なら絶対にこのような作品を発想だにしないのですが、安居さんも奥さんも身の回りの何気ない事柄をテーマにして作品にされるという創造力に脱帽します。クラブの私たちは良枝さんが亡くなられたことを知っていますが、この作品を初めて見た人はそれが判らないので、最後にテロップで「亡き妻に捧ぐ」といれたらいいと、二次会で会長のコメントがありました。

**4．冬・旭山動物園**

**合原一夫さん　9分36秒**

今一番ナウイ動物園は旭川の旭山動物園だそうです。ここへわざわざ大阪から訪ねていって撮影してこられるという熱意に驚きました。確かに旭山動物園の成功話は新聞で何度か読みましたが、映像で見たのは初めてでその秘密が判ったような気がしました。動物をトコトン見せるためにはこのような施設しかないということが判りました。しかし、動物の側に立ったらここまで徹底的に人間に見られるのがいいのかどうかということは、本人たちに意向を聞かないと判りませんね。果たして何というのだろうと、一寸気になりました。

**5．アンコールワット遺跡群**

**山本正夢さん　7分50秒**

いつもながらの山本さんしか撮れない精力的な映像を見せていただけました。今回はアンコールワットを中心に周囲70ｋｍをバイクを借りて周ったそうです。超有名な遺跡ですが、バイクで駆け巡っただけあって観光ルートにない映像が随所にみられ感心すると同時に楽しませてもらいました。BGMの選曲も適切だった思います。珍しい風景や遺跡の羅列だけではなく、そこに暮らす地元の人々をさりげなく繋ぎこんでいるのでこの地に親近感のある作品になっています。いつもそうですが、今回も朝日と夕日の風景が美しく非常に印象的な作品でした。

**6．夜桜乱舞舞夢（W）**

**江藤洋司さん　7分42秒**

高校生の学園祭を知人に頼まれて撮ったとのことです。３４００HRとテロップに出たのは何ですかとの司会者の質問に、３年４組のホームルームのことですとの作者の弁でしたが、それならその通り判りやす

く入れるべきでしょう。さらにワイドとのことでしたが、映写すると、4：3 の映像を 16：9 で編集したため太った人物になって不自然でした。後で本人からメールでカメラの切替を忘れていましたとの釈明がありました。高校生の舞台演奏は何度も練習したのでしょうか、太鼓の演奏も良く揃ってなかなか見事な演舞でした。

**7．ヴェネチア in イタリア村（W）**

**紙本　勝さん　10分00秒**

「イタリア村」って何だろうとネットで調べたら、”名古屋港ガーデンふ頭に生まれた「名古屋港イタリア村」は、水の都ヴェネチアを再現したエンターテイメントなショッピングモールです。4 つのゾーンには最新のファッションがスタンバイしたショップ、新鮮な素材を使ったレストランなど、イタリアを存分に楽しむことができるスペースが多彩に揃っています。”とあります。名古屋港の中にある恒久的な施設だそうです。名古屋はイタリアのトリノ市と姉妹都市提携にあるそうで、そのような関係からベネチアの運河と街並みを作ったそうです。運河にはベニスから輸入したゴンドラとイタニア人の船頭が舟を滑らせています。なかなか良く出来た施設です。それを僅か３時間の滞在で撮られたとのことです。結構詳細にアップも拾い飽きさせることなく見せてくれました。タイトルだけでは本場に行かれたのかと見間違うので、タイトル文字に日本の、または名古屋のという文字があったほうがいいのでは、との二次会での意見がありました。

**8．近江の海（W）**

**鉄具嘉夫さん　6分30秒**

冒頭に「飛鳥から大津の宮に遷都したこと、壬申の乱によってわずか５年で廃墟になり悲運の都となった」旨のテロップが入りますが、文字数が多いのでロールタイトルの方が読みやすいと思います。作品の製作意図は、作者お得意の万葉集を作品に挿入し、いにしえの都を偲ぶ想いにかられたものと思いました。映像的には琵琶湖のある冬の風景が見事に捉えられています。とくに早朝の朝焼けに浮かぶ三上山（近江富士）を西岸から捉えた映像は実に綺麗でした。この映像を撮るために暗いうちからカメラをセットして待ち構えて撮られたものとその努力に拍手します。BGM も透明感のあるピアノ曲がよくマッチしていたと思います。しかし、エンディングでは映像の終わりと曲の終わりはピッタシ合わせましょう。見終わってしっとりした情感を感じる風景映像でしたが、作者が意図されたような、古の都を偲ぶという情感は私には判りませんでした。歴史的な悲運の天皇、都を映像で表現するということは一番難しいことと思います。あえてその一番難しいテーマに毎回挑戦される作者の意欲には敬服しますが、なかなか伝わってこないものです。このような深遠なテーマは別として風景作品として見たらよく出来ていたと思いました。

**9．湖北町にて（W）**

**増池　茂さん　5分00秒**

厳寒の湖北、雪の降る湖岸の情景を描いた作品です。ヨシが残り雪の降る湖面が TOP シーンで、続いてゴイサギ、カモ等が出てきます。BGM は最初から白鳥の湖の曲が流れています。従っていずれ白鳥が登場するかな、と期待していたらやはりラスト近くになってコハクチョウが出てきました。雪の降りしきる中でコハクチョウたちが身を寄せ合って休んでいる情景はいいものでした。ラストで何羽かが飛び立っていきます。この作品ではラストはさらに数カットの葦の切り株のアップが出て終わりになりましたが、コハクチョウが飛び立っていくシーンで終わったらもっと印象的なエンディングになったことでしょう。

二次会では、作者から撮影の苦労話を聞かされました。大変辺鄙な場所で、帰りのバスの時間を気にしながらの撮影であったこと。雪がレンズフードにたまってうまく撮れなかったこと。20 倍に 2.2 倍のテレコンを付けると鳥を液晶ビューワーでは追いきれないこと、バッグに入れているテレコンレンズを取り付けると、結露して真っ白になったこと、等など。雪の撮影と鳥の撮影にはいろいろご苦労があるようです。この経験を活かして次の雪の撮影ではよりいい作品をモノにしてください。

**10．火渡神事（W）**

**河合源七郎さん　9分58秒**

先月見せてもらった作品ですが、アドバイスを受けてイントロ部分をカットして 3 分ほど短くしましたといって持参されました。前作に比べ引き締まった見事な作品に仕上がりました。撮影場所も的確でアップ、メィデアム、ロングをうまく使い分けています。コネがないとここまで踏み込んで作れないのではないか、と思われる優れた記録作品です。

**11. 晩秋の奈良公園（ＨＤＶ）**

**奥　宏さん　　5分56秒**

HC1 で当初から撮影されている奥氏の最近の作品は、実に堂にいったもので見応えがあります。この作品も奈良公園の美しさがよく描かれており HDV の良さをよく出しています。音の使い方でごく一部分に SE を一寸入れていますが、却って SE をなくして BGM だけにしたほうがすんなり視聴できたように思いました。

**12. 餘部（ＨＤＶ）**

**関　剛　　6分50秒**

厳寒の餘部を撮られた映像です。冬の映像は、期待通りに雪が降らなかったり、逆に降りすぎてレンズに付着して撮影出来なかったり、大変ご苦労されたようです。タイトルが「餘部」となっているのに、「鉄橋と荒海の映像だけで、その位置関係が判らない・・・」との司会からのコメントでした。作者の云われたとおり集落の風景がもっとあったらよかったと思いました。

**13. 金剛山頂回遊記（ＨＤＶ）**

**有村　博さん　　6分52秒**

初めて HC1 で撮ってきたテストテープです、といって持参されました。Vaio で編集されたそうですが、モニター内の小さな確認画面ではピントが合っているかどうか判らずに困った、とのことです。HDV の場合編集中に大きなモニター TV に映して確認できる編集機は一部の Canopus 高級 PC 機種に限られるのでこの問題の解決は高級機を買う以外難しいかも知れません。

**14. 鉄橋のある風景（ＨＤＶ）**

**前田茂夫（筆者）　　8分40秒**

今年の撮影会に予定されている餘部鉄橋の風景を描いたものです。先月は江村さんが餘部鉄橋の秋と冬の情景を取り入れて優れた映像叙事詩を発表されましたが、この作品は秋だけでまとめたものです。昨秋に江村さんをお誘いして一泊二日で撮ってきたものです。江村さんはその後雪の日をめがけて行かれてまとめたが先月作です。この作品を見てくだされば、餘部鉄橋の状況がかなり判っていただけると思います。

**15. 初弘法（ＨＤＶ）**

**江村一郎さん　　6分35秒**

江村さん独特のアップの連続で見せる氏独自の映像作品で久々に見せてもらいました。京都東寺の初弘法の様子を接近してアップで綴っています。全編が盗み撮りで露天での売り手、買い手の様子が克明に描かれています。これほどの映像表現は江村さん以外では出来ないのではと思います。お賽銭を袋に移し変える作業などよくまあ接近して撮られたものと脱帽しました。一つ注文を付けると BGM の選曲が合っていないと感じたことと、BGM と SE との音量バランスが同等でどっちつかずでした。場面によっては BGM だけにする、SE だけにするというメリハリが必要でしょう。

**【寄稿】**

## 劇場映画観賞のすすめ
## ーはじめにー

**上総修一郎**

私達の仲間、アマチュアビデオ制作者は劇場映画を観賞する人が案外少ない。私がかねてから不思議に思っていることの一つである。劇場映画には自分のビデオ制作の参考になる工夫が、たくさんあるし、結構、楽しませてくれる映画もある。まず料金が安いのがよい。六十歳以上になると千円で二時間余りを気楽に過ごせる。こんな安置なものはざらにないと思う。そこで、どなたが観てもオモシロイこと請け合いの映画を紹介してみようと思い経った。

元来人にはそれぞれ好みがある。誰が食べても美味しいなどと言う食物が、この世にないのと同じで私が絶対オモシロイと断じても、ショウモナイと思う人がいることも承知の上。その方々には貴重な紙面を汚すことを許して頂きたい。

これは私の持論だが、映像は再度観てオモシロイ、新しい発見があった、などと言うことは、まずない。あっても極く少ない。

映像には観た瞬間の印象が強烈なものがあるからだと思う。トキを超えて観た人に感銘を与え続ける力は映像にはないと言っても良い。あつても微力だ。

趣味であっても作品として残す以上少しでも人に感動を与えられたら嬉しいと思うのが通常の心情だが、前述のように考えると長い間「映像の世界」に、どっぷりと漬かってきた我が身が馬鹿馬鹿しく、そら恐ろしいと思うときがある。

ところが、私には初めて観た劇場映画でオモロイ、マイッタと、二回も続けて観て尚ときどき観、続けているのがある。初めて観たときはオモシロイ、ドラマの筋の流れの興味であつたが、二回、三回と観続けてゆくと、作つた人達の意気込み、テクニックの熟練度、隅々への気配り、工夫、作り手の心情を想像してみる楽しさと続くのである。この様な有り様を、感銘を与えられたと言うのではなかろうか。後で知ったことだが、この私の感銘を裏打ちする適当な談があるので記録のまま引用する。

プロカメラマン宮川一夫氏の談

『今度またビデオで「用心棒」を見直したたんですが面白い映画です、ほんまにオモロイです』と言い切っている。ナントこの映画は宮川氏自身が精根をこめて撮影した作品である。プロ撮影監督の第一人者の彼がである。それは黒沢監督作品『用心棒』宣伝用の言葉ではない談の流れがそう言わせた。

私の観賞眼に自信を持つたことを付け加えて次回から「用心棒」の解説と観賞の手引きを述べることにする。

## 新製品 Sony HC3 はどうでしょうか？

前田茂夫

HC1 の後継機とされる HC3 が 3 月 3 日に発売されました。今の HC1 が発売されたのが昨年 7 月 7 日でしたから、わずか 8 ケ月で新機種登場です。折角 HC1 を買ったのに、ろくに使わないうちに旧型になってしまった、といって製品サイクルのあまりの早さに嘆かれる方もおられるかもしれません。しかし、本当に HC3 は HC1 の後継機として性能は良くなっているのでしょうか？現物は店頭で少し触ってみただけなので、何とも申せませんが、筆者の個人的な好みからすると、ハイアマには HC1 の方がいいのでは？と、感じています。

HC3 の長所

1.テープが上から出し入れできる。これは HC1 にない一番の長所です。

2.小型軽量になったこと。

3.HDMI 端子が付いたこと。

4.CMOS を改良して最低照度が HC1 の 15 ルクス→ 11 ルクスへ少し明るくなった。

5.液晶モニター：大きさは同じ 2.7 型だが、画素数が HC1 の 12.3 万画素→ 21.1 万画素と大幅にアップした。

欠点

1.従来の電池、従来の 37mm テレコン、ワイコンが使えなくなった。

2.HC1 のようなズーム兼ピント調節リングがなくなったこと。ピントのマニュアル設定は出来るようだがやりにくそうである。

3.ビューファインダーは HC1 の可動式から、固定式に改悪され、画素数も 25.2 万画素→ 12.3 万画素へと半分になった。つまり、液晶モニター利用者にはいいが、ビューファインダー利用者には不便なこととなった。

4.シャッター速度 HC1 の 1/2 ～ 1/10000 秒 → HC3 の 1/2 ～ 1/500 秒へと低速になったこと。

5.HC1 にあった外部マイク端子、ヘッドホン端子が無くなったこと。これは野鳥などの自然派にとっては非常に重要な超指向性の外部マイクが使えないことを意味します。と、いうことで初心者には小型軽量で、少しは明るくなり、使いやすくなったかもしれません。しかし、私たちは映像を趣味にしていることから、あまりに初心者指向の設計思想で作られた HC3 はいかがなものかと、思います。デザインも三脚に据えたら HC1 の横長型はスッキリと重厚な感じがして様になっていると思います。筆者が一番気に入らないものは、ピントリングがないことです。スチールカメラに慣れ親しんだ者にとって距離調節リングがなくなったらカメラではないという認識ですが、皆さんはどのようにお考えですか。距離調節はローレットを刻んだ細い回転軸を指の腹で廻して行えます。